旧三江線「陰陽連絡100年の夢」プロジェクト調査及び実現プラン策定事業（島根県邑南町） 概要版

（1）レガシー形成に関する調査及び検討

①地域特性の調査

- 「地形」「産業」「河川」」「町」「三江線」などの項目を基に文献調査・ヒアリング調査により地域資源を整理・マッピング。
- コアバリューとして以下を整理し、右記エリアコンセプトを策定。

◎グローバルヒストリーとして捉えることができる世界最大の鉱山・中国山地
◎エリアの核をなす「江の川」の存在
◎近代化の象徴としての「鉄道」の意味付け

②廃線後の鉄道資産活用事例の調査

- 文献調査により廃線後の鉄道資産の利活用事例を整理。
- 現地踏査により産業鉄道、鉄道事業者によるトロッコ運行における安全管理体制の在り方について聴取。
- 鉄道事業法、軌道法、労働安全衛生法など、トロッコ車両運行に関する法的条件を整理し、今後の論点を明確化。

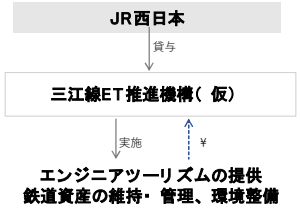
（2）検討会の開催

①車両部会

- 法的位置づけを今後の検討課題とし、当面の検討課題として「三江線安全管理規定策定委員会」の設置・検討を整理。
- 30人乗り車両を選定し、デザインイメージを策定。

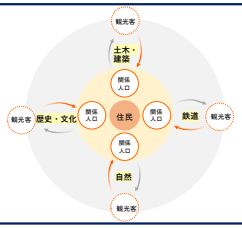
②伊賀和志活用部会

- JR西日本から鉄道資産の保守管理業務を請け負う事業者、沿線自治体、学術機関等による「三江線エンジニアツーリズム（ET）推進機構（仮称）」を推進主体として整理。



③観光振興部会

- 「鉄道」「土木・建築」「自然」「歴史・文化」の4要素から地域住民とコアなファン（関係人口）による地域を一緒につくる活動を中核となるコンテンツに設定。
- メタバースと連動し、地域に関わる人を増やす方向性を整理。



（3）陰陽連絡100年の夢プラン（レガシー形成実現プラン）

レガシー形成に向けたエリアコンセプトと展開方法

“On the extension line”

- 旧三江線の遺跡を中心に、建造時の工夫、時代ごとの最新技術、土地の課題にあったソリューション、生態系との連関などの驚きをもつこのエリアを「あるべき未来へ続く延長線上の地」として位置付ける。
- ツーリズムを通じて、地域住民と来訪者が延長線をつくる「今」を共有し、協働することで、江の川流域の営みや遺跡の価値を増幅し、将来にわたり訪れる人をひきつける日本のレガシーへと高めていく。

陰陽連絡のシンボルとしての トロッコ運行

	エンジニアツーリズム	アドベンチャーツーリズム
旅の形		
顧客	● 土木・ 建築技術者、学生 ● 技術士会、土木学会等の団体会員 ● インフラ、鉄道マニア ● 鉄道乗車体験を求める観光客	● 知的好奇心の高い旅行者 ● 日本でのローカル体験を志向するインバウンド
体験価値	● 江の川流域に残る治水技術の蓄積 ● 近代建築、古民家、町並みの見学・ 学び ● 旧三江線の橋梁・ 陸閘門などの土木技術の見学・学び ● VR、ドローンなどの新しい技術の実証 ● 鉄道の乗車機会	● 中国山地と江の川がおりなす壮大な大地の営みを伝える自然資源・ 絶景 ● たたら製鉄、舟運の歴史・ 文化の学び ● 固有の食文化の体験 ● カヌー、自転車、ウォーキング等自然資源を活かしたアクティビィ ● 鉄道資産を活用した移動体験
コンテンツ	● 江の川の治水技術のガイド の巡り ● 旧三江線の土木遺産巡り ● 江の川流域の建築・ 町並み見学 ● インフラを利用した技術実証機会 ● 周辺の観光地と連携したパッケージツアー	● 鉄と銀を生み出した世界最大の鉱山巡り ● 流域の発展を支えた江の川の特性を知るアクティビティ（ カヌー、カヤッキング） ● 古民家を改修したゲスト ハウスへの滞在と日本酒と江の川の恵み ● 神話の世界を今に伝える石見神楽体験

提供するコンテンツ

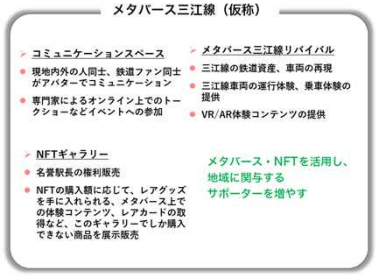
①エンジニアツーリズム

- 鉄道遺構、建築遺産を専門家のガイドとともにめぐる。
- 大学・高専・技術士会等の協力を得て、コンクリート構造物の打音検査、トンネルの劣化調査などの技術を学ぶ。

②アドベンチャーツーリズム

- 日本一の生息地とされる「ぶっぽうそう」の観察、鉄道林活用した森林体験、DIY体験など、自然資源を活用したアクティビティを開発。

③三江線資料館（メタバース三江線）



推進体制とロードマップ

- 今年度の検討結果を踏まえ、①実施体制整備、②車両整備、③ツーリズム開発、④三江線資料館整備 を一体的に進め、レガシー形成を推進する。